

楽しんで過ごしている和歌山での日々

楊 雪

教育学部 交換留学生 中国

和歌山に留学してから、もう二か月が経った。最初にここの生活を非常に期待していたが、少し不安もあった。他の留学生の皆さんと仲良くなれるか、日本の食事に慣れることができるか、授業の内容を理解できるか...このような気持ちで和歌山に来た。ここの生活は北京の生活とかなり違う。私が和歌山で二か月の間に体験した色々なこととお話したいと思う。

まずは環境について。和歌山は北京と比べ、それほど大きな町ではないが、景色が美しく、空気もきれいだ。夏が近づくにつれて温度が上がりつつあるので、私は自転車ではなく、電車で学校に行く。毎日自転車で学校に行っていた頃、その通学路の途中に「指定美観地域」というところがあり、そこに私が知らないたくさんのきれいな花が植えてあって、とても気持ちがいい。そして、もうすぐ梅雨に入るが、晴れた日に空がくっきり見える。北京の夏や秋もきれいだが、毎年冬と春になればひどいスモッグが出てくる。皆はマスクをしなければならない。先日、この状況を改善するため、北京の近くにある工場を全部郊外に移転したそうだが、短時間に回復できないようだ。そのため、和歌山は北京と比べ本当に住みやすい都会だと思う。

また、和歌山の生活は私に「平穏無事」なイメージを与えてくれる。社会人の人たちも学生も毎日ご飯を食べ、会社や学校に行き、そして家に帰ってくる。朝早くから電車に急いで乗り、夜遅くまで傘とアタッシュケースを持って働き、そして夜には家族の待つ家に帰ってくる。毎日毎日変わりなくとても平和な日常である。しかし、この平和な日常に対して、私は時々この町は少し寂しいと感じる。皆が会社や学校に行った後、ひっそりした

和歌山の町はただの建物の集まりだけというように感じる。若者はほとんど見られない。道は恐ろしいほどに静かである。先日大阪と東京に行っていた時、休み時間もワークタイムも道がいつも混んでいて、非常に賑やかだった。観光客もその雰囲気の影響され気持ちが高揚してくる。都市はまるで生き物のようだ。北京も同じである。そういえば、和歌祭りの練習で女子高校生と友達になったが、彼女たちも卒業した後大都会で働きたいと言っていた。東京や大阪などの大都市と比べると、和歌山は静かすぎるという印象を受ける。若者はどんどん大都市に引越しするようなら、和歌山は徐々に元気がなくなると思う。何とかして、もっと活力にあふれた町になれば良いのだがと思う。

ところで、和歌山の生活は静かながらも楽しいが、一つ気になることがある。バスに乗る時の表示板がわかりにくいので困ることがある。どのバスに乗るのが



正しいのか全くわからない。和歌山のバスシステムは少し理解しにくいという印象を受ける。

初めて JR 和歌山駅へ買い物に行ったとき、いきなり知らないおばあさんにバスの路線を聞かれた。私たちは地元の人と思われたのかもしれない。だが、その時私たちは和歌山に来てからまだ一週間だったので、和歌山のバスシステムをあまり知らなかったのも、そのおばあさんに「すみません、わかりません」しか返事ができなかった。少しずつ和歌山の



出典：<http://www.dianping.com/photos/114594491/member>

バスシステムを理解したので、和歌山のバスを中国のバスと比べてみたい。中国のバスは番号で分別され、駅名が全て表示板に書かれているが、地図や色々な路線の色分けは表示板に示されていない。例えば、私は「西单」というところに行きたいなら、59番のバスの表示板に「西单」という駅名があれば、59番のバスに乗れば到着できる。それから、中国

のバスは時間通りに来ない場合もあるかもしれないが本数が多い。一度バスに乗り遅れても、すぐ次のバスに乗れる。しかし、日本のバス会社は大体民間企業なので、利用する人が少ない場合はバスの本数を増やせないのだと思う。この点については中国とかなり違う。今後もっと多くの若者が集まる活気のある町になれば、バスも電車も本数が増えるのではないかと思う。私はそうなることを期待している。

あと二か月で私の留学生活が終わろうとしているが、残された時間に必ず心残りがないよう頑張ろうと思う。